

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

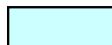
建物名称	(仮称)ナリコマフード九州	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.6 /5	(4 icons)	ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5	(4 icons)	ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5	(3 icons)	がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5	(3 icons)	ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.6
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア 3.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 4 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.3
・ユニット部材として、OAフロアを採用している。	・耐用年数の長い外装・内装仕上げ材を使用している。 ・階高、空間の自由さを確保することで将来の用途変更に考慮している。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.6
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア 3.2	LR2/ 1.1 節水 スコア 4
・高効率な設備機器の採用によりCO2を削減を削減している。	・自動水栓に加えて節水型便器を採用している。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 3 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 3
外構緑化指数20%以上の外構緑地計画がある。	・高温排熱の放出部の設置はない。 ・風を回復させるよう建築物の高さ形状を考慮し、隣棟間隔指数は0.5以上としている。
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.73
・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - 0.9
	外構緑化指数 33.85 %
	建物緑化指數 0 %



: 入力欄

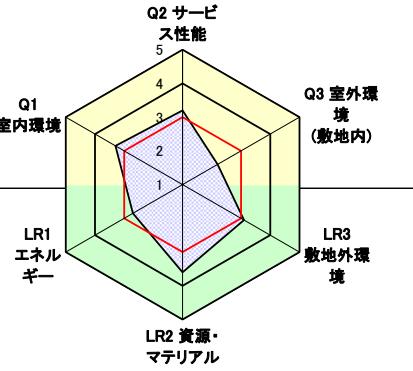
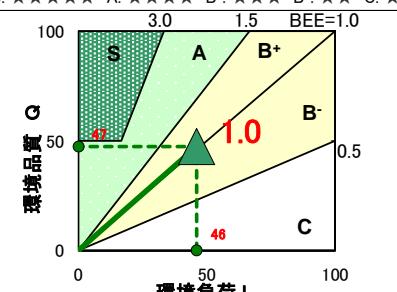


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ナリコマフード九州セントラルキッチン	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市小倉南区葛原元町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840時間/年(想定)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年2月26日
敷地面積	10,388 m ²	作成者	菅谷 新明
建築面積	4,188 m ²	確認日	2019年2月26日
延床面積	9,209 m ²	確認者	菅谷 新明

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																			
BEE = 1.0 ★★★★☆			30%: ★★★☆☆☆ 60%: ★★★☆☆☆ 80%: ★★★☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆☆																				
<p>BEE = 1.0 ★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B: ★★★ B-: ★★ C: ★</p> 		<p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>93%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年·m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>		①参照値	100%	②建築物の取組み	93%	③上記+②以外の	93%	④上記+	93%												
①参照値	100%																						
②建築物の取組み	93%																						
③上記+②以外の	93%																						
④上記+	93%																						
2-4 中項目の評価(バーチャート)																							
<p>Q 環境品質</p> <table border="1"> <tr> <td>Q1 室内環境</td> <td>Q2 サービス性能</td> <td>Q3 室外環境 (敷地内)</td> </tr> <tr> <td>Q1のスコア= 3.3</td> <td>Q2のスコア= 3.2</td> <td>Q3のスコア= 2.2</td> </tr> <tr> <td>音環境 3.4 温熱環境 2.6 光・視環境 3.8 空気質環境 3.8</td> <td>機能性 3.1 耐用性 3.2 対応性 3.3</td> <td>生物環境 1.0 まちなみ 3.0 地域性・ 2.5</td> </tr> </table> <p>LR 環境負荷低減性</p> <table border="1"> <tr> <td>LR1 エネルギー</td> <td>LR2 資源・マテリアル</td> <td>LR3 敷地外環境</td> </tr> <tr> <td>LR1のスコア= 2.7</td> <td>LR2のスコア= 3.6</td> <td>LR3のスコア= 3.1</td> </tr> <tr> <td>建物外皮の 5.0 自然エネ 3.0 設備シス 2.5 効率的 3.0</td> <td>水資源 3.4 非再生材料の 3.5 汚染物質 4.3</td> <td>地球温暖化 3.2 地域環境 3.0 周辺環境 3.2</td> </tr> </table>						Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q1のスコア= 3.3	Q2のスコア= 3.2	Q3のスコア= 2.2	音環境 3.4 温熱環境 2.6 光・視環境 3.8 空気質環境 3.8	機能性 3.1 耐用性 3.2 対応性 3.3	生物環境 1.0 まちなみ 3.0 地域性・ 2.5	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR1のスコア= 2.7	LR2のスコア= 3.6	LR3のスコア= 3.1	建物外皮の 5.0 自然エネ 3.0 設備シス 2.5 効率的 3.0	水資源 3.4 非再生材料の 3.5 汚染物質 4.3	地球温暖化 3.2 地域環境 3.0 周辺環境 3.2
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)																					
Q1のスコア= 3.3	Q2のスコア= 3.2	Q3のスコア= 2.2																					
音環境 3.4 温熱環境 2.6 光・視環境 3.8 空気質環境 3.8	機能性 3.1 耐用性 3.2 対応性 3.3	生物環境 1.0 まちなみ 3.0 地域性・ 2.5																					
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境																					
LR1のスコア= 2.7	LR2のスコア= 3.6	LR3のスコア= 3.1																					
建物外皮の 5.0 自然エネ 3.0 設備シス 2.5 効率的 3.0	水資源 3.4 非再生材料の 3.5 汚染物質 4.3	地球温暖化 3.2 地域環境 3.0 周辺環境 3.2																					
3 設計上の配慮事項																							
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。 			<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - 																				
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ゾーン毎にリモコン等で照明制御が可能な計画とし、光環境向上に配慮している。 ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、室内の良好な空気質環境の確保を図っている。 		<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 天井高を高く確保することで、室内的快適性の向上に配慮している。 		<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 																			
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 		<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、省資源化に配慮している。 		<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。 敷地内に屋外広告照明の設置は避け、周辺の光害抑制を図っている。 																			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ナリコマード九州セントラルキッチン 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 室内騒音レベル						
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能						
2 界壁遮音性能						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音						
2 溫熱環境						
2.1 室温制御						
1 室温						
2 外皮性能						
3 ゾーン別制御性						
2.2 湿度制御						
2.3 空調方式						
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率						
2 方位別開口						
3 昼光利用設備						
3.2 グレア対策						
1 昼光制御						
3.3 照度						
3.4 照明制御						
4 空気質環境						
4.1 発生源対策						
1 化学汚染物質						
4.2 換気						
1 換気量						
2 自然換気性能						
3 取り入れ外気への配慮						
4.3 運用管理						
1 CO ₂ の監視						
2 喫煙の制御						
Q2 サービス性能						
1 機能性						
1.1 機能性・使いやすさ						
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応						
3 パリアフリー計画						
1.2 心理性・快適性						
1 広さ感・景観						
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画						
1.3 維持管理						
1 維持管理に配慮した設計						
2 維持管理用機能の確保						
2 耐用性・信頼性						
2.1 耐震・免震・制震・制振						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						
2 免震・制震・制振性能						
2.2 部品・部材の耐用年数						
1 軀体材料の耐用年数						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						
6 主要設備機器の更新必要間隔						
2.4 信頼性						
1 空調・換気設備						
2 給排水・衛生設備						
3 電気設備						
4 機械・配管支持方法						
5 通信・情報設備						

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高を確保することで将来の用途変更に考慮 空間の自由さを確保し将来の用途変更に考慮	3.3	0.30	-	-	3.3
	1 階高のゆとり		4.0	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ		4.0	0.60	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		4.0	0.40	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.30	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.10	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用[BPI][BPIm]=0.73	5.0	0.03	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.90	2.5	0.61	-	-	2.5
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		ハイベースNEO工法等を採用	4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		グリーン購入法、エコマーク商品を採用	4.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		ユニット部材として、OAフロアを採用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡系断熱材の採用はない	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車台数を確保し、車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			4.4	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	